

ロックガーデンの植栽管理

青山 幹 男

本園では昭和59年秋から60年春にかけて新しくロックガーデンを造成した。その詳細については別項に記してある。ここでは、約1年間を経過した時点でのロックガーデンの管理生育状況を記録した。

1. 植栽

ロックガーデンへの植栽は造成工事終了後の昭和60年4月から5月にかけて行った。その後も、実生苗、購入苗を6～10月の間盛夏期を除き随時植栽した。

植物は環境のちがいに、ドライウォール、スクリー、ダンプ(湿地)、周辺部に区分して植栽した。このうちドライウォールの4つとスクリーはそれぞれ日本産の植栽場所と外国産の植栽場所とを区分して植栽地を分けた。また、周辺部へは、高山植物ではなく国内外の草本類や落葉樹を植栽し修景作りを行った。

2. 管理

(1) 灌水

夏は午後5時以降ミスト装置による灌水とホースによる手灌水の両方を毎日実施した。

春と秋は乾き具合を見て上記と同じ方法で週に3～4回実施した。

冬はウォールなどの乾燥しやすい場所を中心に10日に1回の割合で実施した。

本園のロックガーデンは日当たりがよく、夏の間は高温と水切れによると思われる生育障害が生じたが、灌水による蒸れを防ぐため、敢えて夕方1回の灌水だけにした。

(2) 施肥

6月下旬と8月下旬に、市販のエードボールあるいはプロミックタイムを株の生育状況を見ながら全体で500gずつ与えた。また、5～9月の間、月1回の間隔で薬剤散布と同時にハイポネックス液肥を散布した。

(3) 薬剤散布

5～9月の間、月1回の間隔で液肥とともに殺虫剤、殺菌剤、殺ダニ剤を混合散布した。こ

れは予防散布を目的として系統進化園と同時に実施した。これまでに発生した病害虫としては黒斑病(カンパヌラ)、葉ダニ(プリムラ)、ヨトウムシ(マンテマ類)、イモムシ類(ウスキソウ類)があった。

(4) 除草

月平均5日ぐらい随時除草、花がら・枯葉の整理を行った。

新しい用土で造成したため著しい雑草の発生は見られなかったが、植栽植物とともに持ち込まれたカタバミ、スズメノカタビラ、タネツケバナや外部より飛来したヨモギ、チガヤ、ニガナなどが発生した。

(5) その他

夏から秋にかけて、マット状の植物は株の中心部が盛り上がり蒸れやすくなったので、随時株の中心部に粗目の用土を増土した。

寒さによる被害は生じなかったが、用土に使った日向土、富士砂が含んでいる水分による霜柱が生じた。このため秋に植え込んだ株や小型ラベルが完全に用土から露出することがあり、時折埋め戻す必要があった。

3. 生育状況

(1) 枯死、または少数が生存した種類

タカネツメクサ、キタダケソウ、トウヤクリンドウ、ホウオウシャジン、タカネビランジ、タカネマンテマ、ウルップソウ、チシマギキョウ、シナノキンバイ、エゾリソウ、コイワカガミ、ヤナギラン、エゾノリュウキンカ、プリムラ類、オキシリア・ディギナ、ドラバ・アイゾイデス、アキレア・クランペナエ。

春の植栽は展葉後古い用土をそのままにして



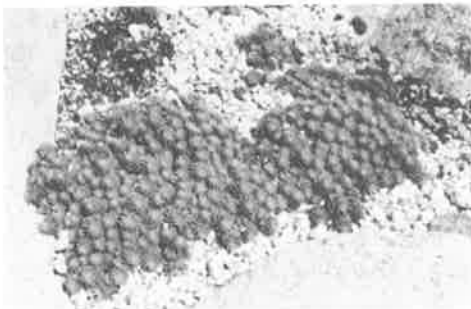
エーデルワイス

植え込んだ株が多く、このため生育障害が著しく生じたものと思われる。特に日本産の植物の多くが栽培困難であったが、用土や植付場所の選定、夏の間の遮光などに配慮すれば栽培可能と思われる。

(2) 衰弱、または半数が枯死した種類

イワブクロ、マイヅルソウ、ハクサンフウロ、ウスユキソウ類、シクラメン・コウム、マキギヌ、ポリゴナム・アルピナム、ビオラ・コルヌタ、レウシア・コチレドン、サキシフラガ・アイゾーン、スカビオサ・アルピナ、カンパヌラ・バルバータ、レオントポジウム・バルビアナム。

これらの種類は前述のように古い用土のまま植え込んだことが原因し高温障害を生じたものと思われる。用土、植付時期に配慮すれば十分生育するものと思われる。



シコタンソウ

(3) 少数が枯死した種類

レブソウ、シコタンソウ、ハゴロモソウ、カトウハコベ、サギナ・スブラータ、アルメリア・ケスピトーサ、ゲウム・モンタナ、ヘレボラス類、プルサチラ類。

これらの種類では数株が枯死したが、株元の古葉の整理やマットの増土などの管理により十分栽培できるものと思われる。

4. 今後の課題

(1) 灌水

ミスト装置を設置したが、ノズル位置が低く、また水が水平方向に噴出するため、配置した石にさえぎられて水がかからない場所が生じている。このため、ノズルの位置を高くするか、または水の噴出方向を斜上に改良する必要がある。

(2) 遮光

現在ロックガーデン全域に終日直射光が当たり、雪田近くに自生するシナノキンバイやプリムラ類は栽培が困難になっている。このため、西側斜面に落葉樹を植栽し少しでも夏の西日を防ぐ必要がある。また、当面の間は直射光に弱い種類は石の陰になる部分を利用し植栽する配慮が必要である。

(3) 用土、植付時期

今年は展葉、開花時に植栽した種類が多く、根をはぐさないで古い用土のまま植え込んだ。特に赤玉土や鹿沼土など水排けの悪い用土で育苗した株をそのまま植え込んだ場合、夏の高温障害の原因となった。早春の芽出し前、または秋の生育期に粗い用土で植えることが必要である。

(4) ダンプ(湿地)の植栽

水質調整のため用土にピートモスを混入したが、効果は認められず根腐れをおこす種類が見られた。これは植栽部分に水の循環がないことも原因している。粗い用土に変えて、植栽部分に水流ができるような工夫が必要である。

滝の壁面もイワヒバの根やケト土を使うことにより利用可能と思われ、ギボウシ、ダイヤモンドソウ、イワタバコ、ショウマ類の植栽を予定している。

(5) 植物の選定

高山植物は種類により栽培の難易度に差があるが、コマクサの場合予想以上によく生育した。同じ種類でも植付時期、場所、用土を工夫して何回か試みる必要がある。

周辺部はロックガーデンとしての基礎工事を行っていないが、修景作りを目的として、低山性、海岸性の野草類を植えていく予定である。



コマクサ